



NO.1 R6.5月

「映画に夢を、映写に誇りを」をモットーに

映写ボランティア「シネマ友の会」は、中央地域視聴覚ライブラリーの16ミリフィルムを守り、映画を存続させるために、平成10年に結成されました。昨年その活動が岩手日報に大きく取り上げられ、様々な方から反響をいただきました。また、「ひと」の欄でも紹介されました。以下に記事を紹介し

岩手日報 2023年(令和5年)10月31日(火曜日) 第20頁

残すフィルム映画文化

盛岡広域「シネマ友の会」
映写ボランティア25年

金沢芳孝代表(左から2人目)ら「シネマ友の会」のメンバー、会を立ち上げた石塚公美子さん(右)は今こそフィルムの魅力を知ってほしい」と力を込める

食い入るようにスクリーンを見つめる浪江保育園の子どもたち

新たな仲間を募集

浪江は無料でフィルムを借り、申し込めば16日まで、られ、希望があれば同会が映写機とフィルムを貸し出す。問い合わせはホームページから「シネマ友の会」(019-651-0331)へ。(向山俊恵)

浪江は無料でフィルムを借り、申し込めば16日まで、られ、希望があれば同会が映写機とフィルムを貸し出す。問い合わせはホームページから「シネマ友の会」(019-651-0331)へ。(向山俊恵)

岩手日報 2023年 10月31日付 岩手日報社の許諾を得て転載しています

盛岡広域で活動する映写ボランティア「シネマ友の会」代表

金 浜 芳 孝さん(75)

昔ながらの16ミリフィルム映写機で、映画の楽しさを届ける。「園児が立ち上がって拍手をしてくれたり、こちらがうれしく感動する」とやりがい語る。八戸市出身。相撲や鬼ごっこが好きなのは少年だった。工業高校卒業後はNHKに入社し、盛岡や青森の放送局でカメラや音声を担当。30歳の時にはフィルムからデジタルの過渡期に対応するため、定時制高校で電気工学を学んだと穏やかに語る。

尊敬する先輩に誘われ、シネマ友の会に入ってから約10年。「人のためにではなく、自分のためだから続けられたんだ」とつぶやく。好きな映画は「大いなる旅路」。1男1女は独立し、盛岡市で妻と2人暮らし。(編集委員室・向山俊恵)

岩手日報 2023年 12月26日付 岩手日報社の許諾を得て転載しています



取材を受けるボランティアの皆さん。(当日集まることができた方々。)記者さんの質問に答えます。(合同庁舎にて)

(合同庁舎にて)